

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal lifestyle and nutrients intakes during pregnancy and exclusive breastfeeding in relation to risk factors for breast cancer: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

乳がんリスク要因に関連する妊娠中の生活習慣及び栄養素の摂取量と完全母乳栄養との関連: 子どもの健康と環境に関する全国調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Preventive Medicine

2023 年: DOI: 10.1016/j.ypmed.2023.107446

筆頭著者名: 南 優子

所属 UC 名: 宮城ユニットセンター

目的:

授乳は乳児の発育成長に重要であるばかりでなく、乳がんを予防するなど母親の健康にも大きな影響を及ぼす。しかしながら、母親の母乳分泌や授乳行動を規定する要因は明らかではない。本研究は、妊娠中の生活習慣・栄養素摂取量と出産後1か月間・6か月間の授乳との関連を明らかにすることを目的とする。

方法:

エコチル調査に参加した母親 97,413 名のうち、初産/単胎の母親 27,775 名を対象とした。まず、妊娠中の喫煙などの生活習慣、マクロ栄養素及び乳がんリスクとの関連が指摘されている栄養素(イソフラボン・食物繊維)の摂取量と「出産後1か月間完全母乳栄養」との関連をロジスティック回帰分析により解析した。次に、出産後1ヶ月間完全母乳栄養を行った母親 9,582 名を対象に、同様の生活習慣及び栄養素摂取量と「6か月間完全母乳栄養の継続」との関連を検討した。

結果:

妊娠中の喫煙は、出産後1か月間及び6か月間どちらにおいても「完全母乳栄養」と負の関連を示した。また、妊娠前の肥満も同様の関連がみられた。栄養素摂取量については、1日当たりのたんぱく質・脂質・イソフラボン・食物繊維摂取量は1か月間の「完全母乳栄養」と正の関連、炭水化物摂取量は負の関連を示していた。また、食物繊維摂取量は「6か月間完全母乳栄養の継続」との間にも正の関連を示した。

考察(研究の限界を含める):

喫煙と授乳との負の関連はこれまでの研究でも示されてきたが、妊娠中の栄養素摂取量に関する知見はこれまでにほとんどなかった。本研究の結果のうち、たんぱく質・脂質摂取と授乳との正の関連は、これらの栄養素が器官としての乳腺の発育に不可欠であることを示唆しているが、炭水化物摂取との負の関連にはプロラクチン低下など内分泌環境の変化が関与している可能性がある。イソフラボン・食物繊維摂取との正の関連からは、仮説的ではあるが、これらの栄養素の内分泌かく乱作用と腸内細菌叢を介した女性ホルモン代謝によって母乳分泌が調節されていることが示唆される。本研究の主要な限界として、母乳栄養に関する本人の意志を考慮できなかったことがあげられる。

結論:

妊娠中の生活習慣、栄養素摂取量は、母親の母乳分泌・授乳行動に影響を与える。喫煙は母乳栄養を阻害し、一方、食物繊維摂取は、母乳分泌の開始と母乳栄養継続を促す可能性があることが示唆された。これらのことから、妊娠中の生活習慣を適切に調整することにより、母乳栄養を成功に導くことができると考えられる。